

# 線刻鉄鏃の系譜

The Lineage of Line-Engraved Iron Arrowheads

## 鈴木一有

SUZUKI Kazunao

はじめに

- ① 認識の経緯と研究史
- ② 線刻の種類と技術
- ③ 線刻の系譜
- ④ 線刻鉄鏃の象徴性
- ⑤ 結語

### 【論文要旨】

マロ塚古墳から出土した線刻を施した鉄鏃（線刻鉄鏃）の製作地と線刻鉄鏃が副葬品に含まれる意義を探るため、古墳時代の線刻鉄鏃を集成し、その分布と変遷の傾向を整理した。鉄鏃に施された線刻は、大きく、1本の直線のみがみられる直線文と、中央の点とその周りの円形模様で構成される円文に分けられる。これらの線刻を施す鉄鏃は、儀仗性が強い点で互いに関連がみられるものの、それぞれ祖形とする鉄鏃が異なり、製作時期や分布にも差がみられる。

直線文をもつ線刻鉄鏃は、弥生時代後期に北部九州において出現した透孔鉄鏃に起源をもち、古墳時代中期の宮崎県域（南九州）において集中的にみられる。1本の線刻は、透孔の退化形態と捉えた。直線文をもつ線刻鉄鏃は圭頭式にほぼ限定でき、広域に流通しない。この線刻鉄鏃は、地下式横穴墓といった特定墓制との関連の中で発達した地域的習俗の一つとみなし、地域内で生産され、地域内で消費されたものと評価した。

いっぽう、円文をもつ線刻鉄鏃は、古墳時代中期の事例が多いものの、すでに古墳時代前期初頭に出現している。弥生時代後期の小孔をもつ鉄鏃との関連も考慮されるが、儀仗性が高い鉄鏃に施される傾向が認められることから、円文は特殊性を際立たせる細工と捉えた。円文をもつ線刻鉄鏃は、圭頭式をはじめ、定角式、柳葉式、二段逆刺鉄鏃など、多様性が認められた。分布の中核が見出せず、朝鮮半島を含め広域に分布している。円文は、倭王権中枢と関連が強い鉄鏃に施されているいっぽうで、地域性が顕著な鉄鏃にもみられる。円文を施す技術や意味が、倭王権にとどまらず、多地域に拡散している可能性がうかがえた。

マロ塚古墳例の確認によって、直線文をもつ線刻鉄鏃の分布が宮崎県内にとどまらず、熊本県域まで広がることが明らかになった。直線文をもつ線刻鉄鏃を用いることに、地域的な紐帯が読み取れる。熊本県域の有力首長層の副葬品に、宮崎県域との関連を示す儀礼用具が含まれることに、被葬者の性格の一端が示されていると評価した。

【キーワード】 マロ塚古墳、線刻鉄鏃、儀仗性、地域間交流、5世紀